

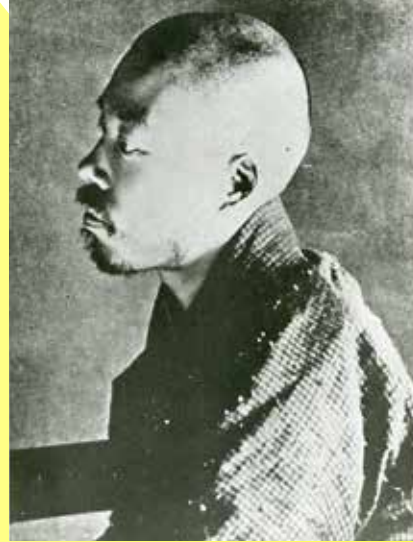
第69回特別企画展

ドナルド・キーンのみた

Donald Keene

「正岡子規」

俳句革新者の探究



《記念講演》

演題：「父ドナルド・キーンとの日々」

講師：キーン 誠己氏

(一般財団法人ドナルド・キーン記念財団代表理事)

日時：9月2日(土) 午前10時30分～正午

会場：1階視聴覚室 ※入場無料

《ギャラリートーク》

日時：9月24日(日)・10月15日(日)、

ともに午前10時30分から50分程度

会場：3階特別展示室 ※聴講には観覧券が必要

《学芸員による関連講座》

演題：「ドナルド・キーンが描いた子規像」

日時：10月8日(日) 午前10時30分～正午

会場：1階視聴覚室 ※入場無料

令和5年 9月2日(土)～10月16日(月)

休館日 9月5日(火)・12日(火)・20日(水)・26日(火)、
10月3日(火)・10日(火)

開館時間 午前9時～午後6時(展示室入場は午後5時30分まで)

会場 松山市立子規記念博物館 3階特別展示室

観覧料 個人400円 団体320円 65歳以上200円 高校生以下無料

特別協力：一般財団法人ドナルド・キーン記念財団

後援：在大阪・神戸米国総領事館

松山市立子規記念博物館

TEL 089-931-5566 〒790-0857 松山市道後公園 1-30

<https://shiki-museum.com>

ドナルド・キーンのみた

Donald Keene

「正岡子規」

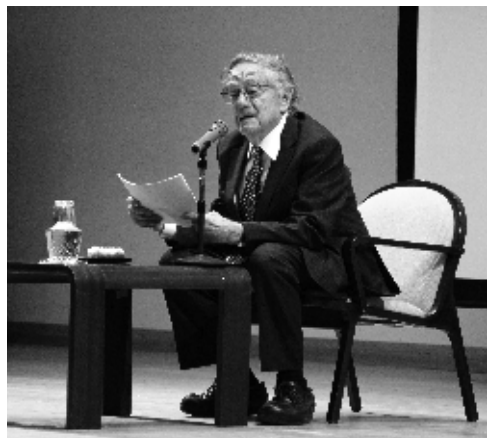
俳句革新者の探究

ドナルド・キーン（一九二二〜二〇一九）はアメリカ合衆国出身の日本文学研究者で、長年にわたり日本文化の研究にまい進しました。その人生最後の研究テーマの一つが、正岡子規でした。キーンは消滅の危機にあった俳句を守った子規の功績について、「新しい俳句の様式を創造することで同世代を刺激し、近代日本文学の重要な要素として俳句を守った」と記し、子規を高く評価しています。

ドナルド・キーンは、大正十一年（一九二二）年、アメリカ合衆国ニューヨーク市に生まれました。幼くして外国語に強い関心を抱いたキーンは、十八歳の時にアーサー・ウェーリ訳「源氏物語」を読んで日本文学に魅了され、海軍語学将校として太平洋戦争に従軍した後、コロンビア大学大学院などに学び、日本文学の研究を進めます。昭和二十八（一九五三）年には京都大学大学院への留学を果たし、谷崎潤一郎や三島由紀夫、司馬遼太郎、吉田健一など文壇の著名人と親交を結び、また能や狂言に親しむなど、積極的に日本文化を吸収しました。以後もキーンは日本文学の研究と世界への発信に努め、その研究の成果は、平成六（一九九四）年に中央公論社から刊行が始まった『日本文学の歴史』全十八巻などに結実します。

精力的に日本文学の研究を続ける中、キーンは俳句に関心を示し、とりわけ「俳句の革新者」として子規に強く惹かれました。晩年、キーンは本格的な子規の伝記の執筆に着手し、雑誌『新潮』での連載を経て、平成二十四年、九十歳の時に評伝『正岡子規』を刊行します。同書中、キーンは俳句革新や短歌革新の業績だけでなく、子規の新体詩に注目し、晩年の「墨汁一滴」「病牀六尺」に子規文学の神髄を見出すなど、オリジナリティのある子規像を提示しました。

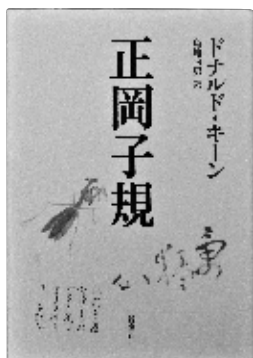
平成二十四年に日本国籍を取得したキーンは、同三十一年二月に満九十六歳で死去するまで、日本文化をまっすぐに愛し続けました。その功績と大らかな人柄は今なお多くの人に語り継がれ、生誕一〇〇年を迎えた今年には、全国でキーンを偲ぶ展示会が開催されました。今回の特別企画展では、一般財団法人ドナルド・キーン記念財団のご協力により、キーンの子規に関する旧蔵書や遺品などの関連資料を一堂に展示し、キーンがどのように子規を捉え、子規を世界に発信したのかを紹介します。



子規記念博物館で講演するドナルド・キーン（平成23年9月24日）



狂言「千鳥」の太郎冠者を演じるドナルド・キーン
（渡部雄吉氏撮影、キーン誠己氏写真提供）



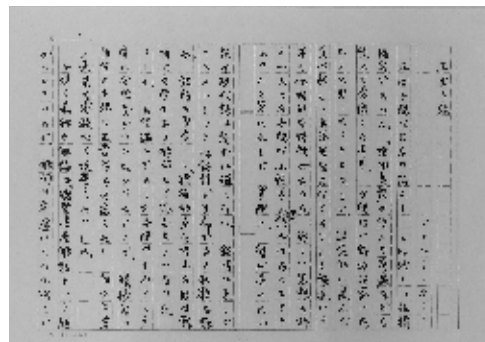
ドナルド・キーン著『正岡子規』
（新潮社刊）



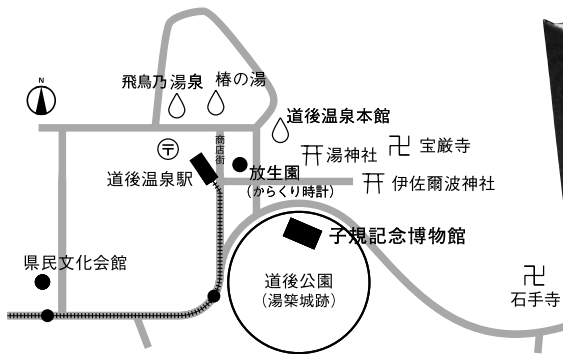
ドナルド・キーン旧蔵 斑紫銅の香炉
（キーン誠己氏所蔵）



ドナルド・キーン旧蔵「子規全集」（講談社刊）
【東京都北区立中央図書館所蔵】



ドナルド・キーン原稿「日本文学を読む」の「正岡子規」
（キーン誠己氏所蔵、東京都北区立中央図書館寄託）



道後温泉駅より徒歩約5分／道後公園駅より徒歩約5分 ※公共の交通機関をなるべくご利用ください

松山市立子規記念博物館

〒790-0857 松山市道後公園 1-30
TEL 089-931-5566 <https://shiki-museum.com>

